

平成 21 年  
10 月 29 日

# 病害虫発生予報 11 月号

茨城県病害虫防除所  
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

## < 目 次 >

### ・ 今月の予報

#### 【注意すべき病害虫】

抑制ピーマン・促成ピーマン：うどんこ病	1
抑制ピーマン：ミナミキイロアザミウマ	1
イチゴ：うどんこ病	2
イチゴ：ハダニ類	2

【その他の病害虫】	3
イチゴ・秋冬ハクサイ・冬レタス・秋冬ネギ・共通害虫	

### ・ 病害虫ミニ情報

平成 21 年の水稻における主な病害虫の発生経過について	4
------------------------------	---

・ 今月の気象予報	5
-----------	---

・ テレホンサービス	5
------------	---

029(226)5321

農薬登録速報については、農林水産省ホームページ「農薬コーナー」

<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html> 内の登録速報を参照してください。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

抑制ピーマン・促成ピーマン

1. うどんこ病

[予報内容]

作型	発生時期	発生量	発生地域
抑制栽培		多い	鹿行地域
促成栽培		やや多い	

[予報の根拠]

10月下旬現在、抑制栽培で多く、促成栽培でやや多い発生である。  
気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年より多く、日照時間は平年並と予想されている。

[防除上注意すべき事項]

発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。  
り病部は新たな伝染源となるため、病斑の多い葉は取り除き、ハウス外に持ち出して処分する。  
薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。

抑制ピーマン

1. ミナミキイロアザミウマ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
	多い	鹿行地域

[予報の根拠]

10月下旬現在、被害果率、発生地点率ともに平年より高い。  
気象予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

本虫は発生が少なくても、果実に被害を与えるおそれがあるので、防除を徹底する。  
薬剤は、薬液が葉裏や花にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性ミナミキイロアザミウマの出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。

## イチゴ

### 1. うどんこ病

#### [ 予報内容 ]

発生時期	発生量	発生地域
	やや多い~多い	県下全域

#### [ 予報の根拠 ]

10月下旬現在，発病葉率はやや高く，発生地点率は高い。

気象予報によると，向こう1か月の降水量は平年より多く，日照時間は平年並と予想されている。

#### [ 防除上注意すべき事項 ]

発生が多くなると防除が困難になるため，初期防除を徹底する。ビニール被覆後は発生しやすくなるので，防除を徹底する。

り病部は新たな伝染源となるため，病斑の多い葉は取り除き，ハウス外に持ち出して処分する。

薬剤は，薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，系統の異なる薬剤を散布する。

### 2. ハダニ類

#### [ 予報内容 ]

発生時期	発生量	発生地域
	やや多い~多い	県下全域

#### [ 予報の根拠 ]

10月下旬現在，被害葉率及び発生地点率はやや高い。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年より高いと予想され，発生を助長する条件である。

#### [ 防除上注意すべき事項 ]

ハダニ類は増殖が速いので，発生の少ないうちに防除を徹底する。特に，ビニール被覆後は発生しやすくなるので，防除を徹底する。

薬剤は，薬液が葉裏や葉柄にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また，薬剤抵抗性ハダニ類の出現を防ぐため，同一薬剤の連用はさける。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	アブラムシ類	発生量：やや多い	10月下旬現在，やや多い発生である。
秋冬ハクサイ	白斑病	発生量：平年並	10月下旬現在，平年並の発生である。
	アブラムシ類	発生量：やや多い	10月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
冬レタス	腐敗病	発生量：平年並	10月下旬現在，平年並の発生である。
	すそ枯病	発生量：平年並	10月下旬現在，平年並の発生である。
秋冬ネギ	べと病	発生量：やや多い	10月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	さび病	発生量：平年並～ やや多い	10月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
共通害虫	オオタバコガ	発生量：平年並～ やや多い	フェロモントラップへの誘殺数は平年並～やや多い。

## 平成 21 年の水稲における主な病害虫の発生経過について

本年の水稲における主な病害虫の発生経過については、下記のとおりでした。今後の防除対策の参考にしてください。

### 1. イネミズゾウムシ

[ 成虫が山林などで越冬し、田植え直後から水田に侵入する。 ]

本年は4月、5月の気温が高めに推移し、成虫の活動開始が早かった。しかし成虫の発生量は平年より少なく、イネの初期生育が優ったため、食害程度は低かった。

### 2. イネドロオウムシ

[ 成虫が雑草地などで越冬し、田植え後のイネに産卵する。成虫も食害するが、特に幼虫の食害が大きい。 ]

本年は広い範囲で発生した。さらにイネミズゾウムシ同様、成虫の活動開始が早かったので産卵開始時期も早かった。6月中下旬の低温によって幼虫の生育が停滞して食害期間が長期化したため、被害程度は平年よりやや高くなった。

### 3. いもち病

[ いもち病は、例年6月下旬から葉いもちが発生し始め、梅雨明け直前頃に最も発生が多くなる。その後、出穂期頃の天候不順により、穂いもちが発生する。 ]

本年は、6月下旬から降雨が続き、葉いもちが発生しやすい条件となった。発生量は平年よりやや多くなり、出穂前には止葉付近に病斑が見られるほ場もあった。このため葉いもちは病害虫情報、穂いもちは病害虫注意報を発表し、注意喚起と防除指導を行った。8月に入り天候が回復したことで、穂いもちの発生は多かったものの、枝こういもちが中心で、穂首いもちによる白穂は少なかった。

### 4. 斑点米カメムシ類(クモヘリカメムシなど)

[ 斑点米を発生させるカメムシ類は、イネの出穂前には水田周辺のイネ科雑草地に生息し、イネの出穂とともに水田に侵入する。また、刈り取りが遅いイネでは、出穂時に飛来量が少なくても、周辺が刈り取りを終えるに従ってカメムシ類が順次集中し、斑点米被害が発生する場合がある。 ]

本年は、出穂前の水田周辺イネ科雑草における発生量はやや多かった。本田における発生時期はやや早く、全体的な発生量はやや多かったため、病害虫情報を発表し注意喚起した。なお、地域や圃場により発生量の偏りがあり、多発生した圃場もみられた。

### 4. 稲こうじ病

[ 籾にだけ発病する。胞子が葉に付着し、穂ばらみ期に葉鞘内へ雨などで流れ込み、出穂前の籾(幼花器)に感染する。 ]

本年7月は降雨日が多く、感染しやすい条件であったため、発生量はやや多かった。

### 5. 縞葉枯病

[ ヒメトビウンカが媒介するウイルス病。発病株のヒコバエ(収穫後の再生稲)を吸汁したヒメトビウンカが越冬して、翌年の伝染源となる。 ]

本年は、県西地域の一部で、縞葉枯病による茎の枯死や穂の出すくみが確認された。発生量は少なかったが、今後の動向には注意が必要である。

防除対策：発生地域では、収穫後は早期に耕起してヒコバエをすき込んだり、ヒメトビウンカの越冬場所である畦畔雑草などを除草する。また、田植え時に殺虫剤を苗箱施用して、イネ生育初期のヒメトビウンカを防除する。

## ・ 今月の気象予報

### 関東甲信地方 1 か月予報

( 予報期間 10 月 24 日から 11 月 23 日 )

気象庁 ( 10 月 23 日 発表 )

< 向こう 1 か月の気温 , 降水量 , 日照時間の各階級の確率 ( % ) >

[ 確率 ]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	10	30	60
降水量	関東甲信全域	30	30	40
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[ 概要 ]

天気は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

< 1 週目の予報 > 10 月 24 日 ( 土曜日 ) から 10 月 30 日 ( 金曜日 )

気温 関東甲信地方 高い確率 70%

< 2 週目の予報 > 10 月 31 日 ( 土曜日 ) から 11 月 6 日 ( 金曜日 )

気温 関東甲信地方 高い確率 50%

< 3 週目から 4 週目の予報 > 11 月 7 日 ( 土曜日 ) から 11 月 20 日 ( 金曜日 )

気温 関東甲信地方 高い確率 50%

## ・ テレホンサービス

下記の情報を 24 時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために、病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号 : 029 ( 226 ) 5321

11 月上旬 施設野菜の病害虫防除について

11 月下旬 本年の水稲で発生した主な病害虫と今後の対策

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散 (ドリフト) しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。